

# 迷惑メール対策に挑むネット業界

法制化だけではない！

井上トシユキ

## 標的となったドコモの憂うつ

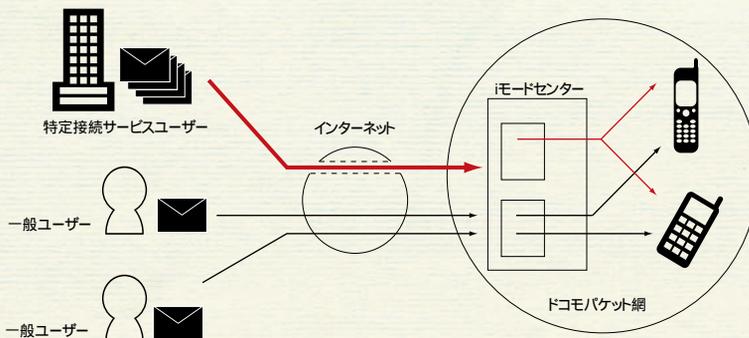
時と場所を選ばずに一方的にやってくる広告メール、通称「迷惑メール」が問題となっていて久しい。迷惑メールが迷惑であることの原因はいくつかあるが、なかでも、こちらが希望したわけではないにもかかわらず、携帯電話などでは通信料が発生してしまうことはどうにも納得できない。迷惑メール最大のターゲットであるiモードについては、NTTドコモが昨年5月に電話番号をベースにしたメールアドレスの変更をユーザーに呼び掛け、迷惑メール業者がもつ名簿を無効にすることを試みた。

「iモード向けの迷惑メール対策は99年から実施しています。昨春のメールアドレス変更の呼び掛けも、そのうちの1つ。ほかに、2000年11月からは『メール指定拒否、指定受信機能』を提供し、2001年8月からは120円相当(400パケット)のパケット通信料を無料にした。これは、だいたいメール100通分にあたります」と、NTTドコモの永田英昭氏(iモード事業本部iモードビジネス部営業推進担当課長)は話す。

ドコモでは昨年10月、独自に迷惑メールに関する調査を行っている。それによれば、インターネットから1日平均約10億通のメールがiモードセンターに届き、そのうち約1億5000万通がユーザーに届いたメールだったという。その後、大量の宛て先不明メールをブロックすることで、現在は1日にユーザーに届くメールは8000万通まで減った。

劇的な効果を上げる一方で、未だに迷惑メールが届くという声もなくはない。サービス提供者の責任として、ドコモがサーバー側で自動的に悪質な送信元をシャットアウトしてくれればいいのではないかという意見もある。しかし、第一種電気通信事業者のドコモの場合は、通信の「内容」を判断してメールをブロックすることは法律上難しいのだという。また、そういった対策を施しても悪質な業者はさまざまな手段を講じてくるため、「受け入れるアドレスを指定したほうが合理的(永田氏)との見方もある。実際、ドメイン指定受信をかけない場合、1日あたり40~50通の迷惑メール

## メール配信事業者には特定接続サービスも



ユーザーがメールアドレスを変えてしまったことで、オプトインメールなどを配信していたメール配信業者は痛手を蒙ったというが、これも少しづつ落ち着きを取り戻している話もある。それよりも大量のメール配信による遅延が問題化しており、ドコモではこの対策として、一定の条件をクリアして契約を結んだメール配信業者が遅延なくメールを配信できるように「特定接続サービス」を今年3月1日からスタートさせている。

が届くことがあるが、指定した場合はまったく来なくなったことが調査によって明らかになったという。

永田氏によれば、auやFOMAなどですでに採用されている、ユーザーが開封したメールのみ受信料が課金される『選択受信』機能を、来春に投入する通常のiモードの新型端末に追加する予定だという。

### パターン検出で処理するHotmail

同じように迷惑メールの標的にされている、インターネットメールはどのようなだろうか。「Hotmail」の担当者、大谷まり氏(マイクロソフト MSN事業部サービスグループ プロダクトマネジャー)が話す。

「ユーザーに手間をかけさせず、サーバー側で可能な限り先に対処するというのが基本的な考え方です。具体的には、ウェブ画面上でフィルタリングレベルを高、低、知人のみの3段階から選択すれば、あとは『この条件が揃うと迷惑メールである』というMSN独自のルールの組み合わせに基づいて、迷惑メールの可能性のあるものをサ

ーバー側で判断して処理している」

宛先が空だったり、FromやDateが無効な情報だったり、ヘッダーの中にあり得ないIPアドレスが含まれたりする場合などが迷惑メールとして弾かれるのだという。「現状、迷惑メールのほとんどは米国発信のもの。サンプルをとって迷惑メールフォルダーに必要なものが間違っていないかを調べますが、これまでのところ、間違いはありませんね(大谷氏)。

### 法制化によって改善に進むか?

では、迷惑メールを送る業者が利用するISPの対策はどうか。OCNでは99年以降継続的に迷惑メール対策は講じているのだが、昨年からは契約の約款変更による“悪徳”利用者の排除と、メールサーバー側での技術的なブロック策を打ち出して、対応を強化しているという。

だが、こうした状況に対して業者側も自前でサーバーを立て、いくつものfromアドレスを使い分けるなど、悪知恵を駆使して対抗している。「迷惑メール送信業者の

ブラックリストがISP間で共有できればいいのだが、広告という商行為なのか迷惑メールなのかという判断基準、迷惑メールの定義などデリケートな問題があるため、現状では思いきった対策を打つことは難しい(NTTコミュニケーションズ サービスクリエイション部担当課長 甲田博正氏)。

なによりも、ドコモやOCNは第一種電気通信事業者として、送られてきたメールは基本的には送り届けなければならない。総務省との認識や理解の温度差もある。事業者としては、できることはやっているというのが本音であるようだ。

4月になって、「特定電子メール送信適正化法案」「特定商取引に関する法律施行規則の一部改正案」が相次いで可決、成立したように、行政もやっと本腰を入れはじめたが、迷惑メールを完全に駆逐できるものではない。迷惑メール問題には、情報通信ネットワークの商用利用と事業者のモラル、個人情報やプライバシーの保護など、多くのテーマが内包されている。今後の動きを注視していきたい。

### もはや一般的になった「受信拒否」機能



Hotmailの受信拒否機能は、受信トレイの画面からメールを選択して「受信拒否」ボタンを押すだけで設定できる。拒否するメールアドレスあるいはドメインの選択ができる。特徴的なのは、セーフリストと呼ばれる受信許可の設定と組み合わせられるところだ。

### Hotmailでは迷惑メールを自動的に処理



Hotmailで蓄積された迷惑メールのパターンを解析し、Weighted Ruleとよばれる数十の迷惑メール判定ルールを作ったという。このルールはそれぞれ重み付けがなされており、ルールの組み合わせで一定以上の重みがあると迷惑メールとして自動的に検出され処理されるという。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)